

令和3年度 第1回日本遺産推進協議会総会

令和3年6月2日(水) 16:00~17:00 議会棟4階全員協議会室

出席人数 23名

※文中、特にことわりのない限り、本会の名称は「協議会」と表記する。

開会

【事務局】

- ・緊急事態宣言が延長された中での開催となり、感染予防対策のため、会議中の換気と合わせて、会議時間を1時間程度とする。

名誉会長挨拶

- ・今年度第一回目の協議会の総会に、ご多用の中ご出席いただき感謝する。
- ・新型コロナウイルス感染症の収束のめどが立っておらず、緊急事態宣言が今月の20日まで延長となった。コロナ対策の切り札となるワクチン接種について、本市は4月12日に全国的に最も早く高齢者への接種をスタートした。現在では、高齢者の約5割の方の第1回目の接種が終わり、第2回目へと順次進めている。ある程度高齢者への接種のめどがついたので、今月の下旬からは、64歳以下の市民にも順次接種を始める予定。希望されるすべての市民にできるだけ早期に接種を行っていきたいと考えている。
- ・日本遺産は認定されてから間もなく1年が経過する。皆様にも協力をいただきながら、日本遺産を活かしたまちづくりを進めてきた。
- ・そのうちの大きな成果の一つとして、桑都日本遺産センター「はちはく」の開設がある。認定から非常に短期間で行ったので、国からは高い評価を得たが、残念ながら緊急事態宣言に伴いオープンが延期になった。今月の12日にオープンする運びとなる。セレモニーの実施はかなわないが、できるだけ感染対策をしっかりととりながら、多くの方に来館いただき、八王子の豊かな歴史や伝統文化に触れていただければと願っている。
- ・教育面では安間教育長にもご尽力いただきながら、子どもたちに対しての日本遺産を活用した郷土学習を今年度からスタートした。多くの子どもたちにより郷土愛を育てていただくきっかけになってほしい。
- ・コロナ禍にあって活動が制約されているが、都内唯一の日本遺産のまちとしてさらなる発展にお力添えいただけるよう、引き続き、皆様の協力をお願いする。

【事務局】

- ・会議資料確認
- ・名簿更新

委員挨拶

- ・現在、本協議会委員長に大野氏（観光コンベンション協会）が務めているが、議事進行を行っているため委員をもう一名選出することとなった。八王子観光コンベンション協会専務理事の廣瀬委員が就任した。

4月1日付の異動発令に伴い、3名の委員が変更となった。

- ・都市戦略部長 植原委員
- ・産業振興部長 瀬尾委員
- ・学校教育部長 小柳委員

これ以降会長による議事進行

会長挨拶

- ・文化庁の認定を受けてから2年目となる。本日は2年目における事業計画や予算案についての議案である。ぜひ活発な議論をお願いしたい。
- ・八王子観光コンベンション協会では、バスの輸送による旅行業の認可をとったため、構成文化財をパッケージにした小旅行の実施を考えている。皆様も自ら企画立案して、市民に対する認識と宣伝を努めていただきたい。
- ・八王子芸妓が八王子をどりを披露したが、大変すばらしい演技だった。各々が、このような取組を積極的に展開していただきたい。また、市内のみならず日本全国あるいは海外にも戦略的に発信して、まちづくりの一環として努めていただくよう協力を願う。
- ・委員の出席について。東日本旅客鉄道株式会社の沢登委員の代理で、奥富委員が出席。また、町会自治会連合会会長の秋間委員の代理として、副会長の尾寄委員が出席。したがって23名の全員が出席としているため、本会は有効に成立とする。

議事

議案（1）令和2年度 事業実績について

【事務局】

第1号議案

- ・令和2年6月19日に日本遺産の認定を受け、7月30日に本協議会を設立。
- ・9月4日、文化庁から補助金の採択額通知を受け、事業を着手。
- ・10月、文化庁主催の日本遺産フェスティバルへ参加。

- ・12月、お城 EXP02020 へ参加。
- ・1月14日、令和2年度第2回総会。
- ・2月13日、文化庁主催の日本遺産シンポジウムへ参加。コロナ禍でオンライン開催となったが、全国の数ある伝統芸能の中から八王子車人形、説経浄瑠璃を全国に向けて魅力発信できた。

第1号・第2号議案 関連資料

① 人材育成「日本遺産 PR 隊」

- ・日本遺産PR隊人材育成は、特に若者20～30代で構成され、東京周辺でも歴史イベントなどの活動をしている団体「武者所」と連携している。今後八王子の日本遺産をPRできるような人材として、日本遺産を学んでもらう講座を開催した。その成果として、「日本遺産PR隊」を任意で結成した。「はちはく」のオープニング動画など、ショートムービーを7本作成した。YouTube等で公開している。

② 人材育成「八王子森林パトロール隊」

- ・市内で50年来活動の歴史がある「八王子森林パトロール隊」と連携をした。
- ・子どもたちを広く募集することはかなわず、参加は小学校の5名にとどまった。
- ・3月、子どもたちは日本遺産の勉強を自ら取り組むとともに、高尾山では観光客にインタビューした。これらは動画として記録した。
- ・日本遺産を含めた高尾山の案内ができるような人材づくりに着手した。

- ・①武者隊と②森林パトロール隊との連携は今年度も継続する。

③ 普及啓発事業「桑都・八王子展」など

- ・市内にゆかりのあるアーティスト10名に構成文化財をテーマにした作品制作を依頼した。
- ・制作者は、八王子車人形の西川古柳氏へ話を聞くなど、その思いを作品にした。
- ・この展覧会を昨年度は高尾599ミュージアムで開催し、4月からはセレオ八王子で展示し、同展覧会のパンフレット冊子も作った。
- ・若い芸術家とコラボレーションすることで、新たに日本遺産に関心を持つ人々の発掘につながったと思う。

④ 普及啓発「いちよう祭り」

- ・昨年のいちよう祭りは、コロナ禍によって違った形（モバイルスタンプラリー）での開催となった。
- ・日本遺産パネル展の実施のほか、日本遺産の構成文化財を含めたスタンプラリーなどを実施し、非常に多くの方が日本遺産を注視する機会となった。

- ・今年度はさらに日本遺産との連携を深め、いちよう祭りを絶好のPRする機会として捉える。

⑤普及啓発「日本遺産ウォーキングイベント」

- ・コロナ禍での実施となったが、参加者にトランシーバーを渡しながらいガイドするなどさまざまな試行をしながら実施した。
- ・イベントの実施者である(株)歴史シアター・ジャパンの宮田太郎氏は、多摩・神奈川地域の名ガイド。非常に多くの方から参加希望があったが、すべての方が参加できなかったのが残念だった。
- ・引き続き事業を継続して、八王子の魅力を広く紹介していきたい。

⑥調査研究「地域における日本遺産の活用」

- ・東京都立大学と産官学の連携をし、その成果として、民間の事業者が開発した立体模型に映像を投影する技術(プロジェクションマッピング)を開発した。桑都日本遺産センターに実装して、展示・解説物として活用している。

⑦調査研究「イベント開催に向けた『桑都物語』調査研究」

- ・織物関係については、文化庁から深堀をするよう宿題があった。
- ・織物関連のイベントとしては全国的にも成功事例である富士吉田市のイベントと深く関わった方と連携して、八王子らしいイベントの企画・検討を行い、今年度、この検討をもとに繊維産業に関するイベントを開催したい。

⑧調査研究「日本遺産の活用に向けたマーケティング調査」

- ・インターネット調査のほか、新宿駅での街頭調査など、インバウンド需要を踏まえたマーケティング調査を実施した。
- ・日本遺産桑都物語の認知度は2割であることがわかった。
- ・高尾山の来訪度や外国人の八王子の旅行に対する興味関心は非常に高いことがわかった。
- ・今後のプロモーション、事業展開の参考になる資料となった。

⑨調査研究「織物のまちのいまと歴史研究」

- ・現状八王子に残されているさまざまな繊維関係の工場(市内15か所、市外3か所)で実際にヒアリングを行い、その中からどういったものが今後の活用につながるかを研究した。
- ・貴重な資料も出てきたが、現在その資料の公開に向けた準備をしている。

⑩・⑪活用整備「看板の設置」

- ・八王子城跡をはじめ、構成文化財に看板を整備した。
- ・看板には二次元コードを付け多言語音声ガイドアプリと連携した環境整備をした。

⑫活用整備「日本遺産音声ガイドアプリケーション」

- ・日本遺産の構成文化財など 30 件を、多言語に対応した音声ガイドとして楽しめるアプリケーションを製作した。
- ・ナレーションには、学園都市文化ふれあい財団理事長の村松委員に協力していただき、非常に聞きやすい音声ガイドができあがった。
- ・現在、チラシを作成中であり、市民に広く普及に努めていきたいと考えている。

⑬情報コンテンツ作成「動画制作」

- ・BS-TBS が制作した DVD のダイジェスト版を YouTube で公開している。
- ・学習用に市立小中学校のすべてに動画コンテンツを視聴できるような環境を整えた。

⑭情報コンテンツ作成「BUNCARD」

- ・日本遺産 BUNCARD を制作した。マンホールカードやダムカードが有名であるが、文化財を活用したカードは全国的にも稀である。
- ・市内の(株)第一合成と連携して、日本遺産の構成文化財を新たにすべてイラストで書き下ろしたカードである。
- ・イベントやゲーム性を持たせるなどして、活用を図っていきたい。

⑮・⑯情報コンテンツ作成

- ・新たなデザインのリーフレットのほか、さまざまなプロモーショングッズを作成し、活用を始めた。
- ・リーフレットや看板などは、英語・中国語・韓国語に対応して、外国人にも案内できるよう整えている。

⑰自主事業「イベント参加（日本遺産フェスティバル・お城 EXPO・日本遺産の日）」・情報コンテンツ作成「イベント出展ブース用ディスプレイ製作」

- ・説明省略

⑱自主事業「シェアサイクリング」

- ・昨年 4 月から、シェアサイクリングの実証実験が開始された。
- ・シェアサイクリングには、スマートフォンアプリから自転車を予約できる仕組みがあり、そこに日本遺産の広告を載せ、全国に向けた情報発信をした。

- ・高尾エリアに設置場所を拡大した。

⑱自主事業「日本遺産センター導入映像用楽曲制作」

- ・日本遺産センターの導入映像用の楽曲制作として、八王子を拠点に国内外で活躍するプロのミュージシャンに楽曲制作を依頼した。

質疑

なし。

第1号・第2号議案 関連事業（市教委実施事業報告）

- ・協議会の事業ではないが、参考資料として日本遺産の推進に関連する市の様々な所管の事業をまとめた。
- ・日本遺産センターを設置した。（文化財課）
- ・構成文化財である八王子城跡の環境整備を行った。（文化財課）
- ・八王子城跡の発掘調査を実施した。（文化財課）
- ・小中学校の学習コンテンツとして、大学生が小学生にもわかりやすい日本遺産の動画コンテンツを制作する事業を実施したほか、「桑都八王子かるた」を作成した。今後の学習に活用していく。（指導課・文化財課）
- ・昨年の秋以降、観光推進として日本遺産を活用した「行こうよ キャンペーン」「体験型モニターツアー」を実施した。「行こうよ キャンペーン」では、高尾山周辺をメインに、のぼり旗の掲揚などさまざまなイベントを行った。高尾山の賑わいに資したと思われる。（観光課）
- ・動画プロモーションの事業として、動画プロモーション動画を37本制作した。（観光課）
- ・シェアサイクルの導入・拡充をした（交通企画課）
- ・高尾山口駅周辺では、東京都と連携しながら河川改修、公園の整備に着手した。日本遺産の玄関口にふさわしい高尾山口駅の整備に着手している。（公園課他）
- ・構成文化財である無形芸能の八王子車人形と、八王子芸妓の動画を制作した。（学園都市文化課）

質疑

なし。

議案（2）令和2年度 収支決算について

【事務局】

- ・決算額は、収入・支出とも合計金額は70,506,169円である。

- ・実際は市の貸付金を借りて返す部分があるため、実質的な収支は4,000万円程度である。
- ・財源構成は、国の補助金、市の負担金で構成されている。
- ・予算額から決算額は、市の実施事業として計画していたものが国の補助対象になったほか、看板は国の補助金の仕様と合わせるよう見直しをした。その結果、余剰金が出たが、それぞれ国・市に返還した。
- ・予算からみた実質の執行率は95パーセント。
- ・補助金の事業や繰越金は0で会計処理をしている。
- ・試行段階であるが、ピンバッジや缶バッジを作成し売り上げることによって協議会としての自主財源を確保した。
- ・24,923円を今年度に繰り越した。

議案（3）令和2年度 監査報告について

【委員】

- ・町会自治会連合会の会長が欠席であるため、生涯学習スポーツ部長から会計監査の報告をする。
- ・5月24日、町会自治会連合会会長と生涯学習スポーツ部長兩名にて、推進協議会・収支決算の監査を実施した。
- ・関係書類を監査した結果、いずれも適正に執行されていたことを確認した。

質疑

なし。

議案（4）令和3年度 事業計画（案）について

【事務局】

- ・補助事業のほか、昨年同様、日本遺産サミット、お城 EXPO、日本遺産の日など、市外実施のイベントにも参加する予定。
- ・昨年度の事業の効果や継続性を考慮し引き続き実施する。
- ・ガイド育成ツアーや、「桑都」の魅力普及啓発事業については、繊維・織物をテーマにした他市との連携を想定したイベントを開催していきたい。
- ・新規事業となる「桑都・八王子の花街魅力向上」は、4月から着手した。昨年整備された中町の「まちなか休憩所」を中心拠点として、月に2回八王子芸妓を派遣し、八王子の芸妓文化にふれるような取組を始めた。緊急事態宣言により5、6月の開催を見送ったが、6月26日の再開に向けて準備している。
- ・「桑都の音」に関する調査研究については、構成文化財の周辺環境として高尾山薬王院のほら貝の音をはじめとする様々な音があり、そういった音に着目してプロのミュージシャンと調査研究を行い、桑都の魅力を五感で楽しめるようにする。

- ・織物工業組合の八王子繊維貿易館の一部を提供いただき、機織り体験ができるコーナーを整備する。
- ・桑都日本遺産センターは、開館後、新たな展示により魅力を加えられるよう、展示内容を充実させようと考えている。
- ・日本遺産情報発信コンテンツの充実として、既存のアプリケーションやSNSと連動させるようなWEBサイトを新たに構築する。様々な魅力的なコンテンツを制作していく。
- ・プロモーションの普及啓発として、今年度は保育園や幼稚園でも活用できるような幼児向けの紙芝居を製作する。子ども家庭部と連携しながら、幼児にも日本遺産の魅力を少しでも理解できるような取組を考えている。

議案（５）令和３年度 収支予算について

- ・令和３年度予算の財源構成は、昨年度同様、国の補助金と負担金及び貸付金により構成されている。
- ・昨年度と比較すると、500万円程度の減額となっている。
- ・支出の部では、先ほど説明した主な事業を項目ごとにまとめた。

質疑

なし。

報告事項（１）日本遺産ロゴマーク使用申請及び後援名義使用申請の状況について

【事務局】

- ・日本遺産ロゴマークの使用申請状況について。日本遺産ロゴマークは、使用規定に基づき、ストーリーの普及啓発、広報、理解促進を目的としており、本協議会に事前に申請の上、誰もが広く使用できるものとなっている。
- ・令和２年度は商用利用で7件、その他の利用13件、合計20件の申請があり、すべて承認した。
- ・高尾山商店会の土産物に貼るシール、日本酒のラベルなどにロゴマークを商用利用として使用した。
- ・本協議会の後援名義には、1件の申請があり承認した。

質疑

なし。

報告事項（２）「桑都日本遺産センター 八王子博物館」の開館について

【事務局】

- ・市長から6月12日に桑都日本遺産センターをオープンすると説明があった。経過としては、当初は4月29日開館を予定し、本協議会との共催によりオープニングセレモニー、イベントを予定していた。しかし、緊急事態宣言によりセレモニーとイベントを延期して6月12日にオープンすることになった。
- ・セレモニーは、薬王院の佐藤御貫首のご協力により柴燈護摩^{さいとう}を執り行う予定だったが延期となった。再調整を図っていきたい。

質疑

なし。

報告事項（３）市立学校における郷土学習の推進について

【事務局】

- ・市立学校における郷土学習の推進について。今年度、すべての市立の小・中学校において、「桑都八王子かるた」の活用や、日本遺産の動画などのコンテンツを見ることができる一人一台の学習用パソコンを活用しながら、郷土学習を計画的に取り組む。
- ・それぞれの学校で地域の実情に合わせた取り組みをしていくことで、非常に効果が期待できると考えている。

質疑

なし。

【会長】

その他に報告することはあるか。

観光甲子園について

【事務局】

- ・観光甲子園は、全国の高校生が4人1組で動画を制作し、競い合うというもので、昨年度から日本遺産部門が新たに設置された。
- ・全国の高校の中で、日本遺産テーマにできる高校は限られている。東京都の唯一の日本遺産であるため、ぜひ八王子の市内の高校生からエントリーしてもらえれば、事務局から、市内の公立・私立高校に情報提供やエントリーを促すような案内をしている。
- ・5月31日からエントリー開始。受付終了は6月18日。非常に短い期間ではあるが、高校生たちにぜひ参画していただきたい。
- ・協議会の皆様にも知り合いの高校の先生などいれば個別にお声がけしていただきたい。

質疑

なし。

【会長】

- ・せっかくの機会なので、高尾山薬王院貫首である佐藤委員から挨拶をお願いしたい。

委員挨拶

- ・高尾山には、11 件の構成文化財がある。この責任感を持ち、この一年間さまざまな取り組みを続けてきた。
- ・3 月 14 日には、高尾山の麓で火渡りという山伏独自の荒行の儀式を行った。協議会会長をはじめ、多くの委員の皆様立ち会っていただき、実際に火を渡っていただいた。国土安穏と感染症が早く収まるようにと願いを込め、およそ 1500 人が集まった。
- ・各小・中学校からは、高尾山について学びたいという話をいただいた。第三小学校、第四中学校に出向き、高尾山の歴史、そして「霊気満山」という言葉を子どもたちにわかりやすく伝えた。様々な感想の中で、高尾山という場所は、大自然がたくさんある観光の場所、レクリエーションの山で、お父さんお母さんに連れて行ってもらったり、友達と遊びに行く場所だと思っていたが、高尾山に深い文化や長い歴史があるのを初めて知ったといった感想が非常に多かった。
- ・人々の生きざまそのものが後々に歴史や文化と呼ばれていくのであろう。
- ・薬王院ではいまを生きる私たちが、使命感、そして、身をもって八王子の歴史を後世に伝えられるよう取り組んでいる。
- ・高尾山薬王院貫首に就任して 6 月 1 日で半年が経つ。皆様の深いご支援のおかげである。昨年末は、入山式と呼ばれる儀式を厳粛におこなった。来年には、晋山式を執り行う。これこそがこのお寺の貫首に就任したことを広く披露する儀式である。
- ・日本遺産でも「人々の祈りが紡ぐ」と標されている。まさしく歴史の紡がれる移り変わりが来年の春であり、それは 645 年間の中で 33 代目となるタイミングであり、晋山式は、日本遺産が盛り上がるためにも大事な行事と思っている。
- ・まちの復活のきっかけ、気運の向上につながればと私共は考えている。それに伴い、日本遺産の啓発にもつながってくると考えている。
- ・皆様にはお知恵を拝借して気運を高めていただければ、益々の発展につながってくるのかなと思う。

その他

【副会長】

- ・八王子まつりが 2 年連続で中止になったが、山車の維持保全は引き続き努めなければならない。

- ・相原委員のご説明のとおり、もともと八王子まつりは多賀神社の上の祭り、八幡八雲神社の下の祭りを経て現在に至っている伝統あるまつりである。郷土の気持ちを考えると、祭囃子など、お祭りに関連するものがお盆あたりにできればいいと思う。
- ・開催には多少の予算が必要となり、地元町会をお願いをしていると思うが、市もご配慮いただき、多少なりとも神社のまつりができれば、市民としての喜びになると思う。

【会長】

- ・副会長からのご要望について、ぜひ、市としてもご検討をお願いしたいと思う。
- ・冒頭でも申し上げたが、日本遺産の推進は地域の再生にも大変有効であると考えている。各構成団体・委員の皆様も、それぞれの組織団体の中で、日本遺産を活かした取り組みをさらに推進していただくよう改めてお願いしたい。
- ・協議会だけでなく、事業者や市民も大勢巻き込みオール八王子として盛り上げていきたいので、忌憚のないご意見をいつでも事務局にお寄せいただきたい。
- ・これにて、令和3年度第1回日本遺産「桑都物語」推進協議会総会を閉会とする。

閉会